１２／５　校長室より №331

12 月に入りました。あとひと月で新しい年を迎えます。今日の朝会で、「12 月(師走)」と「お正月」のことについて話をしました。

少々長いですが、紹介します。

12月のことを昔は何と呼んでいましたか。“師走”ですね。“師走”の“師”は先生ではなく、僧侶＝お坊さんのことです。「普段落ち着いている僧侶でさえ走り回るくらい忙しい月」という説がよく語られます。

しかし、これは俗説だそうです。“しわす”という言葉は、仏教が伝来した頃にはすでに使われていて、「十有二月」「十二月」「季冬」などと書いて“しわす”と読ませていました。では、なぜ1年の最後の月を“師走”と書くようになったのでしょうか。

調べてみると、「**歳果つ**」や「**為果つ**」が変化したというのが有力な語源の説だそうです。つまり、「としはつ」「しはつ」と呼び慣わされていた言葉が、「しはす」から「しわす」に変化し、「師走」という当て字で書かれるようになったことになります。

次に「お正月」について。お正月の行事は、もともと「**年神様**」をお迎えするためのものです。昔から元旦には「年神様」という新年の神様が、一年の幸福をもたらすため各家庭に降りてくるとされています。そうすると、なぜ年末に大掃除をするかわかりますね。大事なお客様である年神様を迎える前に神棚や仏壇、そして家

の中をきれいにするということです。一年間にたまったほこりを払い、隅から隅まできれいにすると、年神様がたくさんのご利益(りやく)を授けてくださるのだそうです。

お正月には「門松」を飾ります。この門松は、年神様がそれぞれのお家に降りてくるときの目印です。「年神様、どうぞ迷わず家においでください」ということで、門のところや玄関に飾ります。

それから、「鏡餅」も年神様と関係があって、年神様へのお供え物であり、依(よ)り代(しろ)、つまり神さまが宿るところなのです。また、鏡餅は大きい餅と小さい餅の二段になっていますが、あれは太陽と月を表していて、円満に年を重ねるという意味も込められています。

「鏡餅」の上に乗せるのは？ みかんですが、本来は「橙(だいだい)」というミカン科の果物を乗せます。家が“代々”続くようにという意味を込めて鏡餅の上に飾っていたそうです。特に葉が付いているものは、木に実っている状態に近いため、縁起がさらに良いとされています。

どうです、おもしろいですね。 他にも、「お年玉」「おせち料理」「初詣」などたくさんあります。みなさんも、ぜひ調べてみてください。教科書の中のことはもちろんとても大事ですが、自分の興味のあること、おもしろそうだなと思うことを自分から調べてみる、追究してみるというのが本当の勉強の始まりです。

さて、師走は「歳果(としは)つ」や「為果(しは)つ」が変化したとさっき言いました。歳が果てる、万事を為し果たす……「12 月は 1 年の

最後の月で、今年のうちにやるべきことは全部やりとげる月」という意味で、まさに、1 年の締めくくりの月にふさわしい名称です。

皆さんが、今年のうちにやり遂げておくべきことは何ですか？やるべきことをしっかりやり遂げ、清々しい気分で歳神様を迎えられるようにしたいものです！